



AA日本ニュースレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL 03-3590-5377
FAX 03-3590-5419



No.55

オフィス運営委員を退任するにあたり

今一番気になっていること

JSOオフィス運営委員 森岡 洋

(高田西城病院医師)

アルコールに対するコントロールを失い、一杯のつもりで飲み始めても、必ず腹一杯飲んでしまうのがアルコール依存症者である。そしていったん失ったコントロールは、どんなに長くお酒をやめていても、元へは戻らない。「たくあんは大根に戻れない」ということをAAでよく聞いた。

それならAAはたくあんの集まりである。たくあんの命は、塩だ。塩気のないたくあんなど、食べたものではない。AAでは、「12のステップと12の伝統」が塩に当たる。これがおろそかにされていると、たとえ名前はAAでも、病院のグループ・セラピーの方がはるかに魅力があるだろう。

たとえばステップ4、5をやらなかつたらどうなるだろう。AAの最大の魅力のひとつである、正直なありのままの話は聞けなくなる。かっこわるい話をするよりは自分の業績を誇りたいという自然の人情に勝てなくなり、素面の今がどんなに幸せであるかという話が多くなると思う。これからアルコールをやめたいという人が、そのような場所にいても、自分と同じように酒に打ちのめされた人をそこに見いだすことはできない。深刻な孤独感は癒されることなく、場違いな所に来た感じて帰ることになる。自分と同じように、飲酒で大失敗をして劣等感や不安で一杯の人が一人でもいたら、いやそのような話さえ聞けたら、事態は大きく変わっていただろう。病院にメッセージを運ぶ場合も、同じことが言える。入院中の人は、アルコールを断つことができるだろうか、仕事はどうしようかなどというのが最大の関心事だ。そこへ来て、飲まない自分がいかにうまくやっているかというような話ばかりすると、自慢話に来ているというメッセージが伝わることになる。やめてよかったという話の弊害はまだある。お互いに飲まないでやって来たことを誇り合う

ようになり、いつの間にか競争が生まれる。自分の意見を武器にした論争が始まり、分裂の危機が訪れる。心を開いて、飲んでいたときにどうであったかという話をし、互いのありのままを受け入れて、たぐいまれる友情が生まれるのとは正反対の結果である。

こうなると面白くないのでAAにはだんだん人が来なくなる。すると、病院から患者さんを強制的にAAを送り込んでもらおうなどと考えはじめ、「われわれの広報活動は宣伝により促進することよりも、ひきつける魅力に基づく」という伝統11を忘れてしまう。実は多くの人がAAの門をたたいたのに、そのほとんどが離れて行ったことに気づかないのである。

オフィス運営委員退任の挨拶を書いてくれと頼まれたのだが、通りいっぺんのあいさつではしょうがないので、今一番気になっていることを、自分を戒めるために書いてみた。2年の間にいただいた数々の友情に、心から感謝している。

運営委員長を務めて

JSOオフィス運営委員長 長谷川

かねてよりメンバーの間で懸案になっていたオフィス運営委員が2年前に公選で決まりました。そのおり、メンバーの推薦、投票によって運営委員に選んでいただき感謝しております。はなはだ勉強不足で不真面目な性格ですので運営委員会の皆さんを始め、JSOの職員や多くのメンバーのかたがたにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びします。

委員会の互選により委員長に推され、微力ながら精一杯頑張ろうとスタートしましたが、自分が思っていたより仕事が複雑で、理解できない面が多々あり、非常に苦労しましたが、職員や他の運営委員会の方々の助けを借りながら何とか現在までやって来ることができました。これが今の私の偽らざる心境です。

2年間、今まで経験した事のないような議題に振り回されて来たように思っています。その中で新しく常任理事会の設立に向かって全国の仲間の皆様と真剣に

考え、討議し、平成8年度より発足できることになりましたことは私の大きな喜びと共に、より一層大きな力をいただいたと思っております。皆さんどうもありがとうございました。

尚、新常任理事の皆さん、発展途上のAAなるがゆえに問題が山積みしている事と思われませんがご尽力のほどお願い致します。

皆様、ありがとうございました

JSOオフィス運営委員 井出

新年度からの常任理事会スタートに伴い、JSO運営委員会から退任させていただくことになりました。選任して下さった皆様、ありがとうございました。サービス体系の確立に向けて永年の構想であった常任理事会、評議会がスタートすることは確実な進歩だと思えます。

自分の任期を振り返ってみますと実質的なことが何ひとつできなかったように思われます。財務補佐として携わってきた期間中、オフィスの財政面での苦しさを知ってはいても、当初の考えとは裏腹に十分な行動ができませんでした。毎月の収支報告を見てジレンマを感じていました。財政難でJSOが機能しなくなればAA全体のサービスが続けられません。JSOの運営は献金がすべてではありませんが、それがサービスの大部分を担っていることも事実です。AAは自分たちの献金で自立しています。そしてその大きな分ち合いの中でメンバーは等しくサービスを受け成長していけると思えます。今年のGSMでの実に即時反応して、JSO支援のワーキンググループが誕生し、そこからグループに配られた献金箱に毎月献金されているのを見ると心強く思います。

口頭、パンフ等で献金の必要性は知られてきていることですが、効果的なのは直接的、具体的な事も考えられます。新任の常任理事の方たちも同様の悩みは続くと思えますが、よろしく願います。全体が個人を、そして個人の献金が全体を支えている原理が伝わるにはどのような方法が効果があるのか考えていただきたいと思えます。評議会の開催月も早くなってきましたので大変に忙しい思いをすることですが、対外的な部分でも、今まで以上のことができるのではと期待しております。

常任理事会にはノン・アルコールの方方もいらっしやいます。メンバーよりも負担が大きいと思えます



が、メンバーでは限界があるところでの活躍、お願い申し上げます。

だれのための時間か

JSOオフィス運営委員 鈴木・T

1995年12月にJSOオフィス運営委員会は解散し、公選制の常任理事会に業務を託すための作業が行われています。こんなとき、JSOから電話があり、前の「オフィス幹事会」のメンバーだった私にその間の全体サービスの移り変わりについて書いてほしいと依頼がありました。いろいろなことが頭を駆け巡りました。自分の経験から選ぶことにして、紙面をお借りします。

昔にさかのぼりますが、昭和58年に東京のいくつかのグループが集まりインターグループのオフィスを作りました。最初は飯田橋、次に秋葉原に移り、3年続けました。机と椅子はメンバーがいらなくなったものを入れ、電話一本とあとは帳簿や書類のみの一室でした。当時の私たちには「サービス・マニュアル」がなく、AAの伝統についても勉強が不足していました。苦しんでいるアルコールクにメッセージを届けるためのグループ・ビジネスもメンバーの関心が及びませんし（それは私たちの力不足によるものですが）、話し合いにも欠けていました。しかしそのことは現在の「関東セントラルオフィス」のさきがけだと思っています。

各地で次第にAAゼミ、コンベンションという言葉が聞かれるようになり、私たちも前とはちがった意味で情報を知りたい、サービスの経験の分かち合いがしたいと感じ取っていました。どう専門家とかかわっていくか、その知識やノウハウについてはまだ手探りでやっているような時期の昭和61年12月、ワールドサービスミーティング（グアテマラ）の第一回報告会が開かれ、全国サービス体系の構想が提案されて、全国を地域割りして全国的な会合を開こうという話が仲間の中でありましたが、次のワールドサービス評議員に私が選ばれ、強く責任を感じました。ノウハウの不足を感じていた私はこのWSMに出席して、マニュアルの必要性を感じ、世界のAAメンバーのサービスに寄せる熱い思いと信頼を目にして、その気持ちをぜひ日本に持ち帰って伝えたいと思いました。私なりに引き継いだものは、自分の回復に役立つものにサービスという責任が必要である、AAの本質はスポンサーシップ：グループ、地域、全体にも同じことが言える、サービススポンサーという言葉の意味、ビッグブックと同じように「サービス・マニュアル」に信頼を寄せている、などです。

当時のJ S Oの運営は「オフィス幹事会」が行っていて、財政の支出、運営については厳重な監査を実行していました。「サービスのための仲間の献金は一円たりとも無駄にできない」という合言葉に要約できると思います。

私は全国評議会推進実行委員会のチェアパーソンをおおせつかり、AAの一体性のメッセージを伝えに仲間と全国を回らせてもらいました。分かってもらえませんでした。AAのメッセージは「送るもの」ではなく「運ぶ」ものだとその時感じました。むしろその言葉に励まされました。ワールドサービスミーティング評議員としての仕事もありました。「12の概念」、つまり常任理事会の設立と日本のAAの将来について、世界の仲間から提案や励ましをもらいました。そしてまず次

の仕事として、公選のオフィス運営委員会、ノン・アルコールの方々の協力の必要性、などを仲間とともに感じました。運営委員会が発足したのは平成5年(1993年)です。委員会はこの間、予算項目の見直し、定期出版物の確保、分かりやすい財務状況の報告、職員の待遇、サービス会議の計画実施などなど、実務者集団として一生懸命やってきました。同時に評議員から委託された「常任理事会」のたたき台も皆さんに検討していただき、サービス・スポンサーとしての役割もいくらか果たし得たと一同考えています。

全国から選出(間接選挙)されたノン・アルコールの友人を含む人たちによるサービスという責任がまた来年から始まります。

WSM 評議員を務めさせていただき



今年サンディエゴでAA 60周年世界大会が、そして日本AA 20周年が発生地1つの大宮で開かれ、同時に待望の第一回アジア・オセアニア地域サービス・ミーティングが開催された年でした。この記念すべき年にWSM評議員として働かせていただきましたことは最高の喜びであり、真に光栄の至りでした。思えば、初めて代議員制度が日本にできた時から今日までの12年の間、与えられた役割を通していろいろなサービスに携わってまいりました。グループの代議員に始まり、地区、地域サービス、日本全体サービス、そしてワールドサービスとやってくる中で、私にはあまりにも多くの価値ある贈り物をたくさん頂いた思いで一杯です。

ソブラエティには本当に大切なこのAAのサービスという第3の遺産を引き継ぎながら、いつも心に秘めていたものは、「今、アルコールで苦しんでいる人のために」でした。それはメッセージを運び続けるためには委員会として「何を...」でした。そしてAAの霊的原理を優先にしたスタッフの協力と一致の精神がなければとても与えられた責任を果たすことはできなかったと思います。その信頼ある一体性の中で常にみんなとモットーとしたのは「感謝のうちに楽しく」でし

WSM後期評議員 美松

た。確かに多忙ではありましたが、その忙しさがまた爽快で人生の生きがいすら感じておりました。本当に感謝以外の何もありません。3年前に山本さんとニューヨークへ行き、後からおずおずと震えながら参加した日が懐かしく思い出されます。そして昨年はコロンビアへ岡崎さんと。今度は私なりのAAの愛と自由をもって各国代表の方々と経験を分かち合えた喜びを今、心からかみしめています。実にAAはひとつです。一体性の中でそれは愛そのものであります。今回のテーマ「基本に帰ろう」というAAの大切な基本原理の報告書は、勝手ながら各グループの方へ送らせていただきました。世界のAAの経験を全日本のAAグループの中でも、さらに経験を広く分かち合ってほしいとのワールドサービスからの依頼なのです。来年は評議員として湯浅さんがニューヨークへ岡崎さんとまいります。私も今日までのサービスから降りる一抹の寂しさがありますが、これがAAの輪番制のすばらしさ。心新たに「基本に帰ろう」の通りグループのサービスに帰ってこのワールドサービスまでの経験を生かして今苦しんでいる人々へ心からメッセージを運びたいと思っています。新年度は常任理事会のサービスが開始されますが、新しい理事の方がたもグループの良心をベースにAAにとって貴重なサービスがなされることを期待しております。

最後に日本のAAの皆様、本当にありがとうございました。またいつの時もうしろから細やかな思いやりと気配りをしてくださったJ S Oスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

無数の仲間が全国サービス体系を作った

J S O 職員 林

14、5年前、多くの仲間と一緒にあるグループをスタートさせた頃、「12の伝統」なるものが、仲間達の歓心を買いはじめた。伝統は1から5までで充分だとか、いや1から12までフルコースで全て必要だとか、かしましく意見の花が咲いていた頃だった。そのグループの運営も少し落ち着きはじめたころ、このグループを12の伝統の実験グループにしてみないかという声が多く聞かれるようになり、熱い伝統への関心は深まっていった。私もその多くの仲間の中の一人であった。

私は20年近く前にA Aを知ったのだが、強い眠剤を服用していたことも手伝って、神概念や哲学的、心理学的な表現が障壁になり、なかなかA Aの中に入り込めなかった。それでも、数えるほどしかいなかった当時の東京の仲間達は本当に私を大事にしてくれた。A Aのなかで問題児としての振る舞いを繰り返しても、ただただ祈って、A Aに帰ってくるのを待っていてくれたらしい。

こんな事があった。18、9年前に東京で、私鉄と当時の国鉄の大規模なストライキがあった。私がA Aに通い出してからその1年間は、眠剤にラリってはいたけれども、お酒は口にしていなかった。その待望の1年のバースデイのお祝いが、今でもミーティング会場となっている信濃町で開かれる予定だったのだが、その日がストライキの日と重なってしまった。そのため、バースデイを1週間延期しようという意見が出たが、私はどうしてもイヤだと言いつ張ったので、ずらさずに行われることになった。当日は電車で数十分もかかる所から歩いて参加してくれた仲間達がいて、色紙ももらったし、メダルももらった。しかし、さすがに

参加できた仲間は限られていて結局次の週、もう一回バースデイを開いてくれた。それほどみんなを騒がせておいたのに、1、2週あとに私はスリップして、また行方不明になった。

結局、4回スリップを繰り返して、43才の時に奇跡的にA Aにたどり着き、4年ほど回復のプログラム一辺倒の生活を経てから、すこし余裕がでてきた。だから仲間と連れだって、「12の伝統の実験グループ」などと言い出した次第であった。

A Aのキャンパスはとてつもなく広い。そして、仲間達がA Aのなかで豊かに暮らすには、さまざまな機能が要求される。それに携わる仲間達も無数に必要な。

スポンサーシップに情熱を燃やして、日夜電話を受ける仲間達もいる。メッセージ活動を大切にする仲間、もっぱらグループ活動や地区活動を大事にする仲間達。海外や国内にいる外国人との関係を滑らかにするよう熱心に活動する仲間達。

そんな中で、私のA Aの中での路線は、A A 10周年でワールドサービスミーティング評議員に選ばれて以来、12の伝統から「12の概念」を抛り所とするサービスの分野へと導かれて行くことになった。1996年1月1日から常任理事会が全国サービス体系の無数の仲間達が関わってスタートする。私は再び地域のグループにスタンスを置いて、次の仲間達と一緒にやりたいと思う。

A Aは自立だし、自律だ。お金に困っても結局はA Aメンバーがお金を工面する。すべての事は結局はA Aメンバーが自分達で決めて、自分達で行動する。だからみんなで力を合わせて、A Aという大きな傘を立て、益々その傘を大きくしていこうではありませんか。

B 類常任理事選出選挙結果報告

A A日本常任理事会B類常任理事選出選挙は、9月20日付けで告示致しました内容に従い、第3レガシー方式で都合3回の選出投票が行われました。ここにA A日本常任理事会発足に際し、全国A Aメンバー各位の良識が遺憾なく発揮されご協力いただけましたことに、選挙管理委員会一同、心より厚くお礼申し上げます。今回選出された方々を下記に示し、全A Aメンバーへご報告致します。

全体サービス常任理事 今井(11月27日選出) 山宮(12月7日選出) 池田(12月14日選出)

メンバー、グループの皆様、J S O 献金にご協力いただき感謝しています。
寒い季節、どうぞお風邪など引かれませぬよう。 J S O 山本